



土曜授業(2/28) スケート観戦!

ホームページも見てね!



☆観戦講座に行ってきました☆

2月28日、土曜授業として、大阪プールスケートリンクで行われる「2015 ICU世界ジュニアショートトラックスピードスケート選手権大会」を観戦します。大会を観戦するにあたり2月25日(水)午後6時から現地で「観戦講座」が行われたので、校長先生と保健体育科教員3人で受講してきました。

解説は、本校にも事前指導の時に講師としてお越しいただいた日本スケート連盟スピード常任委員の 高橋一 先生でした。



☆ショートトラックのエッジはスピードスケートと違い、かかとがかっついている ☆両足とも8mの直径の左カーブがついている ☆エッジの先端は危なくないように丸みがついている

☆勝負の決め方☆

スピードスケートは「タイムを競い合う」のに対し、ショートトラックは「全て勝ち抜き」で勝敗が決まります。また、対戦人数も複数人で、スピードスケートより選手同士の接触が激しく、ユニホームもエッジで切れない素材を使用し、頭を守るヘルメットや首を守るネックガード、目を守るゴーグルなど防具が義務付けられています。手袋も革製のしっかりしたものを使い、私たちのような毛糸や軍手の手袋は使用できないとのことでした。



☆ルール☆

1. トラックを出ない(手は内側についてよい)
2. 他の選手の妨害をしない
3. チームで他の選手の妨害をしない
4. 危険行為をしない

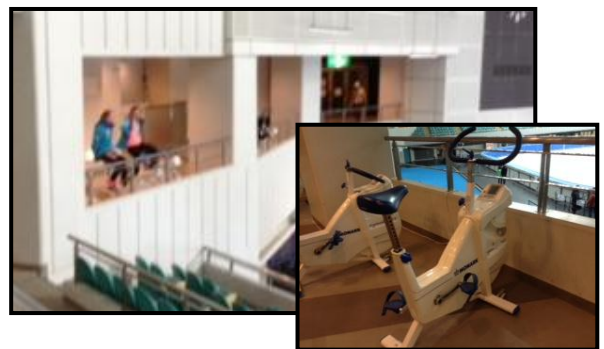
ショートトラックのスピードは、時速50~60kmと速く、写真撮影も苦労しました。スケートの練習では、同じような脚の筋肉を使うということで自転車を使うことも多いそうです。この日も練習の終わったポーランドの選手が調整のために自転車を使っていました。

☆大会の裏方☆

練習後のリンクでは、ゴール判定のためのセンサーを埋め込む作業をしていたり、会場設営のための氷やリンクの作り方も教えて頂きました。



参加国は世界33ヶ国、ジュニアの大会なので年齢は12歳~19歳とこれから有望な選手たちの大会です。中には、すでにシニア(大人)の大会にも出場し好成績を残している選手もいるとのこと。残念ながら日本の代表には大阪出身の選手はいないそうですが、大阪パワーで身近な地域の国際大会を元気に盛り上げたいものです。



2015 I CU世界ジュニアショートトラックスピードスケート選手権大会

★2月28日午前プログラム★

ランキングレース女子/男子1500m決勝
ランキングレース女子/男子 500m決勝

日本選手(女子)



Sumire KIKUCHI
菊池 純礼
トヨタ自動車スピードスケート部

生年月日: 1998.01.15 (16)
身長: 157cm
体重: 48kg
所属: トヨタ自動車スピードスケート部

2014年アジアジュニア選手権 500m 2位
2014年アジアジュニア選手権 1000m 2位
2014年アジアジュニア選手権 1500m 2位
2014年アジアジュニア選手権 3000m 2位
2014年アジアジュニア選手権 5000m 2位
2014年アジアジュニア選手権 10000m 2位
2014年アジアジュニア選手権 15000m 2位
2014年アジアジュニア選手権 30000m 2位

日本選手(男子)



Kota KIKUCHI
菊池 純太
トヨタ自動車スピードスケート部

生年月日: 1998.01.15 (16)
身長: 175cm
体重: 70kg
所属: トヨタ自動車スピードスケート部

2014年アジアジュニア選手権 500m 2位
2014年アジアジュニア選手権 1000m 2位
2014年アジアジュニア選手権 1500m 2位
2014年アジアジュニア選手権 3000m 2位
2014年アジアジュニア選手権 5000m 2位
2014年アジアジュニア選手権 10000m 2位
2014年アジアジュニア選手権 15000m 2位
2014年アジアジュニア選手権 30000m 2位



Kazuki YOSHINAGA
吉永 一貴
名経大市町

生年月日: 1999.07.31 (15)
身長: 175cm
体重: 70kg
所属: 名経大市町

2014年アジアジュニア選手権 500m 2位
2014年アジアジュニア選手権 1000m 2位
2014年アジアジュニア選手権 1500m 2位
2014年アジアジュニア選手権 3000m 2位
2014年アジアジュニア選手権 5000m 2位
2014年アジアジュニア選手権 10000m 2位
2014年アジアジュニア選手権 15000m 2位
2014年アジアジュニア選手権 30000m 2位



Ami HIRAI
平井 亜実
トヨタ自動車スピードスケート部

生年月日: 1998.06.12 (16)
身長: 165cm
体重: 55kg
所属: トヨタ自動車スピードスケート部

2014年アジアジュニア選手権 500m 2位
2014年アジアジュニア選手権 1000m 2位
2014年アジアジュニア選手権 1500m 2位
2014年アジアジュニア選手権 3000m 2位
2014年アジアジュニア選手権 5000m 2位
2014年アジアジュニア選手権 10000m 2位
2014年アジアジュニア選手権 15000m 2位
2014年アジアジュニア選手権 30000m 2位



Shione KAMINAGA
神長 沙音
トヨタ自動車スピードスケート部

生年月日: 1998.06.12 (16)
身長: 165cm
体重: 55kg
所属: トヨタ自動車スピードスケート部

2014年アジアジュニア選手権 500m 2位
2014年アジアジュニア選手権 1000m 2位
2014年アジアジュニア選手権 1500m 2位
2014年アジアジュニア選手権 3000m 2位
2014年アジアジュニア選手権 5000m 2位
2014年アジアジュニア選手権 10000m 2位
2014年アジアジュニア選手権 15000m 2位
2014年アジアジュニア選手権 30000m 2位





Dan IWASA
岩佐 暖
トヨタ自動車スピードスケート部

生年月日: 1998.06.12 (16)
身長: 175cm
体重: 70kg
所属: トヨタ自動車スピードスケート部

2014年アジアジュニア選手権 500m 2位
2014年アジアジュニア選手権 1000m 2位
2014年アジアジュニア選手権 1500m 2位
2014年アジアジュニア選手権 3000m 2位
2014年アジアジュニア選手権 5000m 2位
2014年アジアジュニア選手権 10000m 2位
2014年アジアジュニア選手権 15000m 2位
2014年アジアジュニア選手権 30000m 2位



Kei SAITO
齋藤 慧
トヨタ自動車スピードスケート部

生年月日: 1998.06.12 (16)
身長: 175cm
体重: 70kg
所属: トヨタ自動車スピードスケート部

2014年アジアジュニア選手権 500m 2位
2014年アジアジュニア選手権 1000m 2位
2014年アジアジュニア選手権 1500m 2位
2014年アジアジュニア選手権 3000m 2位
2014年アジアジュニア選手権 5000m 2位
2014年アジアジュニア選手権 10000m 2位
2014年アジアジュニア選手権 15000m 2位
2014年アジアジュニア選手権 30000m 2位

見どころポイントをつかんで競技観戦をさらに楽しもう!!

ショートトラックスピードスケート 観戦の手引

ショートトラックスピードスケートとは

ショートトラックスピードスケートはインドアリンクの普及につれ盛んになり、日本では東京、名古屋、大阪など大都市を中心に競技人口が増えました。ロングトラックとの大きな違いは、全員のタイムを競うのではなく(次のラウンドへの進出方法の手段として用いる事もありますが)、各レースにおいて順位を争うことです。



相手との駆け引きの巧拙が重要な要素になっていて、レースは原則として4人(500m、1000m)および6人(1500m)が同時にスタートして、予選、準々決勝、準決勝と各組上位2人(または必要数)が次のラウンドに進出する勝ち抜き方法で行われます。

競技のみどころ

かつて日本のお家芸と言われたショートトラック競技ですが、最近では中国・韓国の選手をはじめ各国選手がレベルを上げ白熱したレースを展開しています。冬季オリンピックでは1992年の第16回アルベールビル大会から正式種目として採用されました。トラックは1周111.12m(直線:28.85m、カーブの半径:8m)。以前は100m、125mトラックなど、国によって形も異なる時期もありましたが、その後現在の形に統一されました。レース中の追い越しはいつでもどこでもOKですが、前の選手を押す、あるいは引っ張るなどの妨害行為をすると失格になり、次のラウンドには進めません。(原則的には追い抜く側に責任があります)。カーブで先を行く選手はインを抜かれないようにギリギリ内側のラインを滑るので、レース中盤での位置取り、短いストレートの間でいかに前に出るのが勝負となっています。特にフィニッシュはスリットカメラでブレードの先端を1/1000秒まで計測するので最後の粘りが雌雄を決します。

移動するトラック

集団で小さなトラックを回ると、カーブ部分の氷が特に傷んでいきます。このため、カーブに置くトラックマーカー(ブロック)を移動させて、1レースごとにトラックの位置を移動させ、計5本のトラックを交互に使用するのもこの競技の特徴です。例外として500mの準決勝以降では、トラックからフェンスまでの距離を確保するために真ん中3本のトラックを用いてレースが行われます。

競技の安全に関して

抜きつ抜かれつのレースでは接触、転倒も心配されます。従って危険防止のため、選手の安全防具(ヘルメット、手袋、ひざ当て、ひじ当て、ネックプロテクターなど)の着用が規則で義務付けられていて、これらに不備があると失格となります。加えてトラック周囲のフェンスにも定められた高さ・厚さの防護マットが設置され、特に重要な箇所は二重となっています。

